



4年生看護統合実習発表会

看護統合実習が始まりました

統合実習は、学生にとって4年間の集大成の実習であり、看護職への役割移行を円滑に行えるとともに、高い看護実践能力を有する看護職として成長できることを目的としています。そこで、チーム医療における看護師の役割の理解、看護チームの一員として複数患者に対する看護実践に焦点を当て、実習を行いました。複数受け持ちは初めての経験でもあり、試行錯誤の中での実習となった部分もありましたが、チームの一員として自分がどのように行動すべきかという点において、自分自身を見つめ直す機会となり、学生にとって新たな視点が得られたと考えます。 基礎看護学分野講師 上田 理恵

統合実習で初めて患者さんの複数受け持ちを行い、複数の患者さんを受け持つ中、限られた時間で一人ひとりに合った看護を行うことの難しさを感じました。しかし、患者さんと関わることでその人に合った看護を見つけ、実践することができ、関わりの中で看護を行うことの大切さを改めて学べた実習となりました。 五 明 優 果 さん（看護学部4年生）

統合実習では、チーム内でのスタッフの役割に目を向け、改めて情報共有や連携し合うことが重要であると感じました。また、複数患者受け持ちでは、病態理解を踏まえ、変化する状況の中で常に計画した内容を修正することを通して、科学的根拠に基づく判断力や問題解決力の必要性を痛感しました。

山 口 蘭 さん（看護学部4年生）



平成27年度 国際看護実習報告

私にとって国際看護実習は大きな挑戦でした。中でもコミュニケーションが一番難しいと感じました。うまく言葉で説明できないことは悲しかったです。しかし留学生の明るさに助けられ、自分の気持ちや考えを伝えたいと思うようになりました。沈黙では何も伝わらないことを実感しました。実習に挑戦できてよかったと思います。
青木 優果さん (看護学部3年生)



国際看護の実習中は、言葉が通じないことへの苛立ちや、実習による気疲れで、お互いを思いやるのが難しくなっていて気持ちがすれ違うこともありました。しかし、今思い返すととても充実した日々を過ごすことができたと感じています。海を越えた向こうに、一緒に学んだ仲間がいることは、私のかげがえのない宝物です。
一志歩乃加さん (看護学部3年生)



臨地実習でのカンファレンス

国際看護実習では、本当にたくさんの学びと出会いがありました。サモアの学生と共に1つの課題に取り組む大変さだけでなく、楽しい時間を共有する喜びを感じることができました。一緒に笑い泣きあった出来事ひとつひとつが大切な思い出です。準備期間から見送りまで、全てが充実した時間でした。かけがえのない仲間を得ることができ、国を越えた出逢いに感謝しています。
小川 奈々さん (看護学部3年生)

自分の思いを伝えることや相手を理解することの難しさを体験しました。しかし、お互いを理解し合えた時の嬉しさは忘れられません。これは、患者とのかかわりでもあることだと感じました。自分と考えが違うからかわらないのではなく、その方を"知りたい"という気持ちを持ち、かかわっていける看護職者になりたいです。この実習を通してわたしの夢が広がりました。
増澤真菜実さん (看護学部3年生)



新任教職員紹介

今年度5月以降、5名の教員が着任致しました。
どうぞよろしくお願ひ致します。



- 左から順に、
- 田村かおり(基礎看護学分野助手)
- 石井くみ子(基礎看護学分野助教)
- 井出 彩織(母性・助産看護学分野助手)
- 中村 祐希(成人看護学分野助手)
- 上記以外
- 志鷹 直子(認定看護師教育課程感染管理分野専任教員)

皆さんと同じ長野県看護大学の出身で、助産師として昨年の9月まで病院に勤務していました。看護についてだけでなく、卒業生としてお伝えできることもあると思いますのでぜひ気軽に話しかけてください。皆さんと一緒に学びながら、成長していきたいと思っています。
母性・助産看護学分野助手 井出彩織

学生生活動報告

よさこいサークル鼓魂です

谷口夏美さん (よさこいサークル長)

私たちは演舞を見てくれるすべてのお客さんに笑顔になってもらえるような踊りを目指して日々活動しています。昨年、初出場の名古屋で行われたにっぽんど真ん中祭りU-40大会では新人賞をいただき、また、駒ヶ根で開催されたおいでなんしょ祭では、ど真ん中祭り理事長賞をいただくことができました。私たちの活動の背景には多くの支えがあります。そのことに感謝しながらこれからも駒ヶ根を盛り上げ、頑張っていきます！



第20回鈴風祭～無事終了いたしました～

池上 遥さん (第20回鈴風祭実行委員長)



昨年の9月5・6日に開催された第20回鈴風祭は無事、盛況のうちに終了いたしました。当日は悪天候に見舞われながらも非常に多くの方々にご来場いただき、20回目という節目にそぐう学祭として終わることができました。また来年、より楽しい鈴風祭が迎えられるよう、心から楽しみにしています。ご協力いただいた全ての皆様に感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。

生協学生委員会Nsの☆

田畑友理江さん (生協学生委員長)



左から、池上菜々さん(副委員長)、
田畑友理江さん、
林 真帆さん(副委員長)

生協学生委員会では、毎年「Ns(ナース)の☆」という2年の基礎看護実習Ⅱに向けた冊子を作成しています。はじめての病棟実習に不安を抱える2年生のために、先輩方から伺った実習中のアドバイスや生活面で気を付けること、先生方からのあたたかい激励の言葉を載せています。学生からは、「先生方の言葉が励みになった」「事前準備に役立った」という声が挙がっており、今後も実習の助けになるような冊子の作成を目指して取り組んでいきます。



昨年8月に、主に2年生に向けてキャリアガイダンスⅡとして卒業生によるシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、看護師、保健師、助産師として活躍している卒業生を招き、大学での勉強の仕方や就職活動で大切にしたこと、現在の仕事の様子などについてお話いただきました。卒業生から在学生の皆さんへのメッセージです。

伊那中央病院に勤務しています、5年目看護師の横谷優希です。私が進路を決める際に一番大切にしていたのは、看護大学から卒業した先輩方に直接院内の様子を聞くことでした。そうすることで、インターンシップや病院見学では聞けないリアルな声を聞けました。また、新人指導を丁寧にしてもらえるのかという点も大切にしていました。新人の時期は1年しかなく本当に大切な時で、その期間、どんな環境でどう育てて貰えるかはとても大切です。なので、病院の新人指導の方針や方法に注目してみてください。それぞれ納得した進路に進めるよう応援しています♪

横谷優希さん (伊那中央病院 看護師)



保健師として就職して5年が経ち、現在は松本保健福祉事務所（松本保健所）で精神保健業務を中心に相談対応や訪問をしています。様々な年代、生活状況の方の相談では自分の非力さを実感しながら頑張っています。私が保健師になろうと決めたまっかけは、3年次からの領域別実習でした。実際の保健師業務を見ることができ、保健師として働いてみたいという気持ちになりました。地域看護実習は、保健師活動を間近で見ることで、座学だけではわからない保健師の魅力を感じることができます。卒業後の選択肢として保健師を考えてみませんか。

北澤卓也さん (松本保健福祉事務所 保健師)

私が大学4年生の頃、正常産の多い丸の内病院と、ハイリスクな分娩や新生児のケアのできる他病院とで就職先に悩んでいた時、「正常を知らなければ異常を見ることはできない」という恩師の言葉が心に響きました。現在、丸の内病院に就職して3年が経とうとしています。学生時代の自分の選択は間違っていなかったと思っています。自分の目指す看護とは何か、自分はどんな看護をしたいのかを学生のうちに見つけ、今しかできないことに一生懸命取り組んでほしいと思います。

宮阪理子さん (丸の内病院 助産師)



左から、横谷優希さん、北澤卓也さん、宮阪理子さん

学生・教職員から

本の紹介

ここでは、本学の
学生や教職員が、
それぞれ
好きな本を
皆さんに
紹介致します。



櫻井陽菜さん
看護学部1年生

「妊娠カレンダー」 小川洋子

姉は、何も食べられず食物の匂いを忌み嫌い、お腹の赤ちゃんに感覚を支配されるような酷い悪阻を唐突に終えると、ひたむきに休みなく食べ続けるようになります。私は『出荷までに毒薬に漬けられるグレープフルーツ防カビ剤PWHは人間の染色体そのものを破壊する!』という記述をぼんやりと思いながら姉のためにグレープフルーツジャムを作ります。「私」は一体何を想うのか。どこか懐かしい、儂い悪夢のようなお話です。



母性・助産看護学分野准教授
藤原聡子

「ゆるい生活」 群ようこ

『ゆるい生活』の内容は決して「ゆるく」ありません。50代を生きる女性が「水」「嗜好品」「運動」を見直し、真摯に心身のセルフケアを追求する物語です。不老長寿を目指す煉丹術のようなかわしさはなく、ただ真面目さのみが感じられます。半世紀以上も中国古代文献研究に没頭してきた薬学者が昨年ノーベル生理学医学賞を獲得しましたが、日常的で地味な東洋の健康法が、世界でも見直され始めているのかもしれない。



教務・学生課長
大日方 隆

「サラバ!」 西 加奈子

主人公が個性豊かな家族をはじめとする他者との関係をいかに結び直すか、その「もがきっぷり」が見事な作品です。700ページ超ですが、上巻は緩やか、下巻は怒涛の展開で一気に読めます。物語の中にも出てくるジョン・アーヴィングの名作『ホテル・ニューハンプシャー』と同様に、読後は前向きに生きるエネルギーをもらえるので、いろいろな壁にぶち当たっている人に特にお勧めです。貴方も自分のサラバ!が見つかるといいですね。

フォト かんごだい

平成27年6月～11月



6月1日 平成27年度認定看護師教育課程開講式



6月7日 ふれあい花壇の定植



6月19日
1年生基礎看護実習 I 発表会



8月1日 オープンキャンパス



8月7日 生協学生委員会・
学生自治会夏祭り



9月5日
平成27年度第1回公開講座
「巨大災害に備えるー生き残り、生
きのびて、次につなげるためにー」



9月5日
平成26年度卒業生 あつまれ！企画



9月10日～12日
長野県内9大学合同学生キャンプ



9月15日～19日
3年生看護専門領域実習
オリエンテーション



10月23日 防災訓練



11月12日 動物慰霊祭

県内市町村保健師採用合同説明会

就職支援員 唐澤 淳



本学学生及び卒業生等が、県内市町村における保健師活動の実際、及び雇用条件等を知ることによって自らのキャリア発達に資するとともに、保健師確保に苦慮されている県内市町村の一助とすることを目的に、9月5日(土)鈴風祭初日、教育研究棟2階ホールにおいて、本学初の試みである「県内市町村保健師採用合同説明会」が開催されました。県下7市町村の各ブースには、延べ50名を超える学生が訪れ、市町村担当者の方々からの説明に熱心に耳を傾けていて、

南信里親里子交流支援の会



健康・保健学分野講師 秋山 剛

近年児童虐待の増加等により、要保護児童の社会的擁護を担う里親の重要性はますます高まっています。「南信里親里子交流支援の会」は里親・里子の交流及び活動支援を目的として、教授の北山秋雄を中心に2008年に結成されました。会員である里親や関係者により毎月一度、本学にて開催され交流を深めています。夏のBBQ 会開催をはじめ、昨年10月には地域の住民対象に啓発映画の上映会を主催する等、活発に支援に取り組んでいます。

2015年4月25日ネパール中部大地震後の医療支援活動報告

基礎看護学分野准教授 宮越幸代

NPO法人「災害人道医療支援会」の看護師として6日間、現地の診療体制の確立と継続の支援を目的に活動しました。6時間も歩いてやっとたどり着く方や、誤った処置で創が悪化している方もおり、現地スタッフとともに継続的な医療をどう提供していくかを模索する日々でした。自然災害が多発し、大規模化しています。自分にできる支援をしながら、災害医療を実践できる人を育てる、同時にそれを支援する環境も整えるべき使命を改めて実感しました。



後列右端が宮越准教授



INFORMATION



平成27年度 第2回公開講座

女性の健康

～女性ホルモンから腸内フローラへ～

講師 清水嘉子(長野県看護大学学長)

日時 2月6日(土) 14:00～15:30(13:30受付開始)

会場 長野県看護大学 大講義室(教育研究棟3階)

平成27年度 長野県看護大学研究集会

日時 3月17日(木) 9:00～16:00

会場 長野県看護大学 大講義室(教育研究棟3階)ほか

対象 本学教職員、学生、看護職者ほか



今回も県内の看護職者の方々が発表します。是非ご参加下さい。

Nagano College of Nursing
長野県看護大学

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694 TEL 0265-81-5100 <http://www.nagano-nurs.ac.jp/>



長野県看護大学学報
No.41 (平成28年1月)

編集・発行
長野県看護大学広報・交流委員会

大学院だより vol.1

■ 長野県看護大学大学院の魅力

本学には、大学院博士前期課程と後期課程があります。博士前期課程には論文コースと高度実践看護師教育課程として、精神、老年、小児看護学に専門看護師コースを設けています。前期課程の共通科目には、21科目と多様な科目が準備されています。近年、仕事を持ちながら学ぶ学生が増えてきました。また、遠隔地からの通学時間にも配慮して、自宅や職場のパソコン前で授業が受けられる遠隔授業も行っています。さらに長期履修制度を導入し、標準修業年限の授業料で前期課程を4年、後期課程を6年かけて計画的に学ぶことができます。このように看護現場で働く方々が学びやすい環境を整えています。この学ぶための資源を最大限に活用して、豊かな人間性と幅広い視野、看護実践に関する総合的な能力を育くむことができる点が本学大学院の最大の魅力です。



大学院看護学研究科長 渡辺 みどり

■ 教員の研究紹介



小児看護学分野教授 内田 雅代

前任地の千葉大学では、小児糖尿病外来やサマーキャンプに参加しながら1型糖尿病の子ども達の学校生活や成長に伴う課題に取り組み、また、臨床実習指導における課題や先端医療である『骨髄移植をうける子どもと家族』の看護研究に着手しました。本学赴任後は、『小児がんの子どもと家族』の研究を推進し、日本小児がん看護学会活動の一つとして「小児がん看護ケアガイドライン」を開発しました。現在、「小児がん看護の標準化を目指した研究」の一環として「ガイドライン」の臨床活用とさらなる検討を目的とした全国調査の他、「子どもや家族とともに創造する小児がん看護ケアモデル」に関して、分野教員や全国の仲間とともに取り組んでいます。その他、地域のアレルギー疾患の子どもと親の会『たんぽぽの会』の活動を支援しながら親のケアニーズに関する研究活動等を継続しています。



病態治療学分野教授 坂田 憲昭

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に代表される多剤耐性ブドウ球菌は、病院内ばかりでなく、市中において生活する健康な人にも存在する常在細菌のひとつです。我々の研究室では、その薬剤耐性に関わる遺伝子の特徴や各種抗菌薬に対する感受性の違いから、どのような耐性ブドウ球菌が市中において拡散しているのかを調べています。また、黄色ブドウ球菌の分裂・増殖に関与すると考えられる新たなタンパク質を以前に報告しました。これに関わる細菌細胞壁代謝機構の詳細と、このタンパク質を指標とする黄色ブドウ球菌感染症の早期・簡易診断法の開発や、その抗体が我々の感染防御機構に果たす役割についても研究を行っています。

■ 大学院生の紹介



私は、看護基礎科学領域病態治療学分野で、ブドウ球菌属菌について研究しています。病院で勤務しながら、長期履修制度等の制度を利用し、勤務と大学の両立を目指しています。病院では、主に感染防止対策を担当しているため、今回の研究で得られる結果を、臨床でも活用出来るように、取り組んでいきたいと思っています。

2年生 今西 亮さん



後方奥が藤野さん

昨年4月に長野県看護大学大学院看護学研究科博士後期課程老年看護学分野に入学し、8カ月が経ちました。入学後、講義や演習で先生方と議論をする中で、新たな視点から現象をとらえ直したり、自分の考え方の前提や偏りに気づかされたりする場面が多々ありました。また、蔵書に恵まれた図書館もあり、知的な刺激に満ちた環境で学ぶことにワクワクしています。これから研究計画書を作成し、自らの課題に取り組んでいくこととなりますが、先生方のご指導を受けながら日々精進したいと思っています。

1年生 藤野あゆみさん

遠隔授業システム（サラス）を利用して

私はサラスにとても助けられています。サラスはなめらかな画像と音声でお互いにPCのデスクトップ上でコミュニケーションが可能です。授業や研究の相談なども、長野市の自宅からサラスで大学の先生と繋がって指導を受けることができます。高速道路で移動しなくてよいのです。子どもが病気の時は、サラスで自宅から子供と一緒に講義に参加しました。また、先輩が東京都内でCNS（専門看護師）実習をしているときは、ほぼ毎日、実習生と大学の先生がサラスでカンファレンスをしていました。私も自宅からそのカンファレンスに18時から20時頃まで参加することができました。サラスを通じた経験の共有と学びは格別なものでした。サラスというシステムは、仕事をしながらでも学びたいという私たちを力強くサポートしてくれます。精神的な支援も受けているかもしれません。自宅と大学が瞬時に繋がる遠隔授業システム（サラス）、利用しないわけにはいきません。

博士前期課程2年生 早藤夕子さん

